

長崎新聞

県産紙宣言。
12 
おかげさまで 創刊120周年

発行所
長崎新聞社
〒852-8601
長崎市茂里町3-1


電子号外



新型インフルで死者

国内初、沖縄の57歳男性

腎不全で人工透析

過去に心疾患も

沖縄県は15日、新型インフルエンザに感染した沖縄県宜野湾市の男性(57)が入院先の病院で死亡したと発表した。厚生労働省によると、国内では5月に初の感染者が確認されて以来、死者は初めて。

県によると、男性は心筋梗塞の治療歴があり、慢性腎不全で人工透析を

受けていた。新型インフルに感染したことで肺炎を併発、その後、敗血症を起こしたことが死因とみられる。県は「心疾患や慢性腎不全が合併した上に、新型インフルに罹患したため免疫力が落ちた」と説明している。

舛添要一厚労相は同日、那覇空港で記者会見し、死亡した男性の検体

を国立感染症研究所に持ち込み、ウイルスの変異の有無を確認する考えを示した。

男性は9日午後からのどの痛みなどの体調不良を訴えていた。10日に病院で透析を受けた際、37度台の発熱があったため簡易検査を受けたが、結果は陰性だった。

しかし12日、透析中に39度まで体温が上昇したことから、再度検査を受けたところインフルエンザA型陽性と判明。タミフルを投薬され中部徳洲会病院(同県沖縄市)に入院したが、14日未明から容体が悪化し、15日午前6時54分に死亡した。

県が緊急に感染確認のための詳細(PCR)検査を行った結果、15日午後4時ごろ、新型インフルエンザに感染していたことが分かった。

新型インフルエンザの国内対策は当初、発熱患者を診察する病院を限定し、感染者は隔離入院させるなど強毒性を想定した内容だったが、今回のウイルスは弱毒性とみられることから方針転換。現在は、すべての一般医療機関で感染者を診察し、軽症者は自宅療養としている。ぜんそくなど重症化の恐れがある疾患を持つ人には抗インフルエンザ薬の投与や、PCR検査を優先的に実施し、迅速な対応を取るとされている。

新型インフルエンザをめぐる主な動き

- 2009年4月23日 米疾病対策センター(CDC)が、豚インフルエンザに米国内の7人が感染したと発表
- 5-8 米国在住の日本人男児の感染が判明
- 9 カナダから成田空港に到着した大阪府の男子高校生ら計3人の感染が判明
- 16 海外渡航歴がない神戸市の高校3年生の感染が判明、初の国内発生
- 6-11 WHOが警戒水準を「6」に。世界的大流行を宣言
- 19 厚生労働省は一般医療機関で感染者を診療し、軽症者は自宅療養とする改定運用指針を決定
- 29 デンマークでタミフル耐性ウイルスが確認されたことが判明
- 7-2 大阪の女性からタミフル耐性ウイルスが確認されたことが判明
- 22 厚労省が、川崎市の男児がインフルエンザ脳症と診断されたと発表
- 24 国内感染者数が5000人を超えたことが判明
- 8-11 厚労省は、茨城県の4歳男児がインフルエンザ脳症となり集中治療室で治療と発表。国内初の重症例に
- 12 福島県が、同県内に帰省中の小学生の男児が、新型インフルエンザに感染し、肺炎を併発して重症と発表
- 15 沖縄県の男性(57)が死亡。国内初の死者 (日付は現地時間)

詳しくは
16日付の
長崎新聞で

購読申し込み

0120-374673

HP 龍~なが

www.nagasaki-np.co.jp